

## みえ現場 de 県議会「観光産業の振興」実施概要

- 1 日時・場所 平成26年2月7日(金) 14時00分から16時00分  
ハイトピア伊賀3階 コミュニティ情報プラザ(ホールA・B)

### 2 テーマ 「観光産業の振興」

#### <テーマの選定理由>

平成25年は神宮式年遷宮が行われ、平成26年には熊野古道世界遺産登録10周年を迎えるなど、三重県では今、観光が大変注目されています。

今後も多くの観光客が三重の魅力あるさまざまな観光地を訪れていただくための方策を探るため、観光産業に関わる方などから直接意見を聴くことで、観光産業における現状や課題を把握し、このことを通じて三重県の観光政策に関する議論を深めていきます。

### 3 参加者

<県民> 11人(観光産業に関わる方(事業者、NPO、関係団体、有識者など))

<県議会> 13人 ○印は広聴広報会議委員

山本勝議長、○前田剛志副議長(広聴広報会議座長)、○下野幸助議員、  
○小島智子議員、○栗野仁博議員、○石田成生議員、○大久保孝栄議員、  
○中西勇議員、○村林聡議員、○今井智広議員、○後藤健一議員、  
藤田宜三議員(戦略企画雇用経済常任委員長)、  
森野真治議員(環境生活農林水産常任委員長)

<傍聴議員> 4人

<傍聴者> 9人

### 4 プログラム

- (1) 開会 挨拶(山本勝議長)
- (2) 趣旨説明(開催趣旨及び県議会の取り組み報告) 前田剛志副議長(広聴広報会議座長)
- (3) 自己紹介
- (4) 意見交換
- (5) まとめ 前田剛志副議長
- (6) 閉会 挨拶(山本勝議長)

## 5 主な意見

### 観光の魅力、観光資源とは何か

- 自然の景観だけの観光地というのは厳しいと実感している。自然をただ見ているだけでなく、見せ方など切り口を変えて新しい発想で取り組んでいかないとだんだん朽ちていく。
- 赤目四十八滝が忍者修行の場だったことから、4年前に地元の人たちに協力してもらい、手づくりで「忍者の森」という体験の場をつくったところ、リピーターが非常に多く、インターネットによるものか、外国人も多数体験してもらっている。質の高いサービスを目指しているので、全て受けきれずお断りする状態が続いている。
- 忍者の衣装を着て修行体験ができることで、それになりきって楽しめるところが、来てもらえる理由ではないか。
- 忍者修行の体験など、その地域にある歴史や文化などを生かして観光につなげることが大事。
- 伊勢志摩に関しては、たくさん来て、アンチになって帰って行かないかという危惧がある。よくばらない魅力的な人をそこに揃えるということが観光の資源の究極かなと思う。
- 観光業に関わっていなくても、地域の人たちが観光客に道を教えたり、あいさつしたりするだけでもおもてなしになる。地域の人たちが外から来た人をどうやって迎えるのか、その人が持っている魅力を資源と考えていくと、やがてその人に会いに行くというのが観光の目的になっていく。
- 昔は魚をそのまま売っていたのが今は真空パックにしたりするように、観光の素材をいかに商品化して流通させるか、が絶対必要。旅行に来て何をやるかは、お客が住んでいるところで決めているので、そこに情報を出して、決める根拠を出さないといけない。
- お客様の出発地を発地、行かれる観光地を着地というが、発地対応の着地型商品をいかに流通させるかが観光の全てではないか。その中でいかに地域の方が魅力ある商品をつくっていくことが、お客の心をひき、きちんと納得したお金を落としていく、また口コミでつながってファンが増えていくことになるのではないか。
- ホテルで食事を出すときに、伊賀焼の焼き物でご飯を炊くのを見せるだけでもお客様は感動してくれる。使っている地元の食材や焼き物を丁寧に説明すると、早速売店で買ってくれたりする。
- お客様体験型や癒しとか、人とのふれあい、出会い、これをいかに的確につかみ、お客様に好印象を与えるかに尽きる。
- 伝統的工芸品への県の力の入れようが、他県に比べ薄い。三重ブランドも大事だが、国指定の、県を代表する産業なので、もう少しこ入れしてほしい。

### 地域の魅力をつなぐ ～さまざまな連携を～

- 忍者を切り口に、高校生向けの謎解きゲームや企業研修向けの修行体験など、街を回遊するさまざまな体験ツアーを旅行会社と連携して企画、実施している。
- 同じツールを持っているところは連携してお客さんが回遊できるとよい。甲賀など他地域とも繋がれることで、お客の行き来が広がる。
- ロケーションナビゲーター伊賀では、メディアの方へのおもてなしという観点から、映画やテレビ、雑誌などの準備や取材段階からサポートしている。制作者が困ったときに電話できる存在になりたいと考えている。そのことによりリピーターとなってまた撮影に入ってもらえる。
- 女子プロサッカーリーグのホームゲーム開催時は、他県にある相手チームのサポーターが観戦にやってくる。既に地元の事業者と協力してお土産などとして地場産品を販売しているが、その日は地元で宿泊してもらい、翌日は地域の観光と、そんなふうに組んでいったらよいのではないか。
- 県の役割を考えたときに、伊勢や伊賀みたいな所とは違って、あまり強くない所を支援する、そこに県としてのパワーを入れていくという考え方もあり、この辺りをどう考えるか、議論が分かれるところである。
- 県内での行き来が少ない。県として各地域のPRを県内の皆さんにしてほしい。
- 「美し国おこし・三重」は、地域の魅力的な人や団体をクローズアップする企画と思うが、そこと観光が結びついていない。 **【関連：総務地域連携常任委員会】**
- 三重県は、全国的に見ても、観光地としての魅力のうちの食べ物の魅力が大きい県。県の政策において、フードイノベーションや農林水産の部門と観光部門は、一緒にやれとまでは言わないけど、情報は共有してやらないとすごく無駄だと思う。 **【関連：環境生活農林水産常任委員会】**
- 全国のご当地グルメのイベントを開催した際は、市役所に調整してもらって、他の地域イベントと同時開催することができた。県や市に求められるのはコーディネート力。

### 地域の魅力をどう発信し、続けていくか

- 忍者パックという企画で県の支援を受けつつ、海外からの誘客を図っている。海外の方からの問い合わせも来ており、ここ5年ほど、海外の各地で忍者の実演を実施してきた成果が出てきたのかなと思っている。
- 観光の企画が人気になっても、無理せず自分たちが受け入れられる規模に抑えて、丁寧にお相手することが満足してもらえて、リピーターになってもらえる秘訣。
- 例年、NINJAフェスタの前に東京や関西でPRをしているが、東京や大阪で継続的に発信できる場所があればいいと思う。また、県内でも何か連携できないか、県の知恵を借りたい。
- 観光商品としては、まずユーザーの多い商品を前に出していくのが基本ではないか。その中で来られた方に専門的に掘り下げていく。
- アピールするときは強いものから出していくのが民間の発想だが、行政が行うと、バランスを重視して、地域の名所が全て入ったパンフレットを作ったりしてしまう。行政が関わることで、観光というのは難しくなることもある。

- 「忍者」は世界語になっている。三重県として最大の観光PRの武器となるのではないか。
- NINJAフェスタは、始まって11年になるが、行政ではなく地域の皆さんがボランティアでやってきたからこそ、事業として定着した。
- 東京で県が実施した「三重県観光交流会」で、(東京で仕事をしている立場で) 県内の関係者とたくさん名刺交換させてもらったが、その後連絡があったのは1件だけだった。「携帯電話でしゃべれる間柄」というのは一朝一夕ではできないので、そういうところから素早く動くことが重要。
- 各地域で地域の魅力づくりをしている人たちと繋がることで、相乗効果により高めあえるし、同じキーワードで切り口を変えて攻めることで三重の魅力はもっと発信できる。
- 宿泊客には、伊賀の良いところを全部紹介している。
- 従業員それぞれにファンが付くことでお客が増え、リピーターになり、サポーターになってくれる。
- 県には、自分たちが情報発信する場を作ってほしい。
- 伊賀学検定のセミナーや検定会場として、県が東京に開設した三重テラスを活用させてもらうことになった。こういった事業の支援をお願いしたい。
- 三重には、初瀬街道や大和街道など、お伊勢さんに入るための街道があるので、県で「夢街道物語」として発信してはどうか。
- 街道観光など、市町をまたぐものや、海外に向けての情報発信は県が率先してやっていくべき。

#### その他

- 観光による政策効果は、集客数で計るのではなく、地域の人々がどれだけ観光客と関わったかということに計ってほしい。
- 三重国体が平成33年に開催されるが、国体は全国から子どもたちが集まってくる。三重に来て良かったなという思い出を子どもたちが持てば、その後、三重で競技をしたいとか、観光に来たいとか、という効果が期待できる。子どもたちに夢が与えられるような競技場の整備や、おもてなしが必要となってくるのではないか。

#### 【関連：総務地域連携常任委員会】

- 観光地としての指標とすべきは、単なる数ではなく質。リピーターにつながるような取り組みに変えていくべきで、そのためにはデータの分析が必要。
- 「みえ旅パスポート」にICチップを付けておくと、観光客の動きが分かる。年齢や性別など属性によっていろいろな観光行動が見えてくる。そうやって分析しながら、県としてどのように予算配分していくのか考えていく必要がある。

## 6 会場アンケートで寄せられた意見、感想など（参加した県民、傍聴者）

### 【会議の感想】

- 今、全国で注目されつつあるNINJA、県としても発信いただき、三重県の位置づけを明確に。

- オリンピックに向けてインバウンドに力を注ぎ、奈良、京都観光プラス隠れ忍者の観光地として、今が旬であることから、ぜひ県としてもバックアップしてください。
- 伊賀はこれから忍者をテーマとして、体験、忍者修行をテーマとして売り出していきますので、「観光産業と国際戦略」に生かした政策をお願いします。
- 三重らしさを、“ブランド”に頼らずに、県内の連携を通して生み出す取り組みができるとうまいかもしれません。
- 売れるものから前を出して観光を行う、等分にやるのではない、ということについては、あまり気のつかないことであるように思えた。
- いろんな立場の方の意見が聞けて、参加者としてとても勉強になりました。日頃の活動にも生かしたいと思います。皆さま、ご準備からお疲れ様でした。ありがとうございました。
- いつもテレビでしか拝見していない議員の方々を見れる機会を作っていただいて、ありがとうございます。現場で働いてみえる方々のご苦労も伝わってきて、大変有意義なみえ現場 de 県議会になったと思います。これからも「県議会議員に聞く」などの広聴広報番組、議会中継をよりチェックしたいと思いました。
- 多くの方が心底、三重、伊賀について真剣に考えているんだと感じた。今回の有意義なさまざまな意見をこの場にとどめることなく、次のステップに続けてもらいたい。自分もいろいろ新たに取り組むアイデアや行動力に繋がる会となった。これからも幾度となく設けてほしい。
- テーマを掘り下げた議論であってほしかった。
- 参加者がやや多く感じた。
- 議論のテーマをもう少し具体的にすると良いかもしれません。
- 参加者のPRタイムがあると良いかもしれません。

#### 【みえ現場 de 県議会の在り方】

- もし鈴鹿の近辺で開催されることがありましたら、また傍聴したいと思っております。今回このような催し物を傍聴させていただく機会を与えていただきまして、県民の一人でしかございませんが大変うれしく思いました。関係者の方々に感謝申し上げます。本日はどうもありがとうございました。
- 今回の開催はあまり知られていないので、ぜひこの有意義な議論を多くの方に聴いてもらえるように努めてもらいたい。そして実行、実現してほしい。
- 議員の発言を期待していたが、あまり発言されなかったのが少し残念でした。最後の議長の挨拶が良かった。
- テーマをもう少し絞って、長い時間議論できるようにすべき。
- 開催地の人が県に陳情することがメインの感が大きくて、私が出席する必要性が果たしてあったのかどうか。人数も多すぎる気がしましたし、話を短くと言ってもだらだらしゃべるような人は最初から外すべき。本気でやるなら根本的にスタイルを変えた方がいいと思います。地元のガス抜きなら別ですが。
- 議員の皆さんそれぞれは、どんなことに力を注いでいるか、前もって知れるとうまいかもしれません。